

食べ物のひみつを教えます

～食べ物ひみつ館をひらこう～

「すがたをかえる大豆」科学読み物での調べ方(光村図書)

計25人

本単元で育成する資質・能力

読解力、協働する力

1 本単元の指導目標とめざす児童の姿

【指導目標】 思B(1)ウ, 思C(1)ア

- ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

【キーワード】

- ① 自分の考えと事例の関係を明確にして読んだり書いたりする。

【単元終了後にめざす児童の具体的な姿】

- ① 筆者の考えと事例の関係に着目して、例の書き方やその順序など説明の仕方の工夫を読み取ることができる。
- ② 科学読み物を読んで文章を書く際には、自分の考えと事例の関係を明確にして、よりよい組み立てや例の書き方を考えることができる。

2 想定される児童のつまずきと手立て

- ・学習のゴールがイメージできず、なんのために学習するのか分からないままになる。
- 単元の始めに、なんのために学習するのかを具体的に話し合い、明確にする。また、学習したことをどんな風に表現するのか、モデルを用意して全員が認識できるようにする。
- ・内容の読み取りについての個人差が大きいため、協働的な問題解決が充実しにくい。
- 学習計画に沿って次時の課題を予め告げ、家庭学習で内容を押さえてから授業に入るようにさせる。

3 単元計画(全14時間)

次	時	学習内容や学習活動	学習する事柄	評価規準(評価方法)
一	1	・単元の見通しをもつ。 ① 教材文「すがたをかえる大豆」を範読する。 ② 教材文を読んで、初めて知ったことやひみつを調べたい食べ物を書く。 ③ 食べ物のひみつについて調べ、食べ物のひみつ館を開くというゴールを設定する。	・学習計画の立て方	・単元のゴールをイメージして意欲を高めている。(発言・ノートの感想)
二	2	・教材文を読み、文章全体の組み立てを読み取る。	・文章全体の構成の捉える ・要旨を把握する	・段落ごとに小見出しをつけ、内容をまとめている。(ワークシート)

	3	・「はじめ」をくわしく読んで、文章全体の「中心」となる話題を確かめる。	・「問い」について考えることで、文章全体や段落の中心を捉える	・「はじめ」の書かれ方を検討することで、文章全体の「中心」となる話題を確かめている。(発言・ワークシート)
	4 本 時	・「中」をくわしく読んで、おいしく食べる工夫を見つけたり、説明の工夫をまとめたりする。	・各段落の中心(大事な文)、段落の順序性	・「はじめ」とのつながりを考えて、各段落の大事な文を見つけている。(発言・ワークシート)
	5	・大豆のひみつについて、リーフレットを作る。	・学習した内容をリーフレットにまとめる	・科学読み物から必要な情報を読み取り、リーフレットに整理することができている。(リーフレット)
三	6	・科学読み物での調べ方を確かめる。	・本を活用した調べ学習の進め方	・科学読み物での調べ方を理解し、本が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(発言・ワークシート)
	7 8	・グループで選んだ材料について調べ、調べた内容を整理する。	・図や表を用いて、集めた情報を整理・分類する	・図や表を用いて情報を整理する方法を理解し、調べることや伝えることを明確にしている。(発言・ワークシート)
	9 10 11	・文章の組み立てや例の書き方を考えて、説明する文章を書く。	・説明する内容とそれを支える事例との関係を明確にした書き表し方	・適切な事例を選び、順序に気を付けながら、接続語を適切に使って文章を書いている。(リーフレット)
	12 13	・「食べ物ひみつ館」を開き、いろいろなグループの文章を読み合い、感想を伝え合う。	・分かりやすい説明にするための工夫についての理解を深める	・文章を読んだ感想を伝え合い、友達や自分の文章のよいところを見つけている。(発言・ワークシート)
	14	・振り返りを行う。	・今後の学習や生活への生かし方	・これからの学習や生活に学んだことをどう生かしていくかを考えている。(ワークシート)

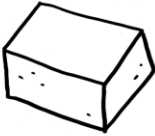
4 言語活動の見本

〈表〉

感想

わたしは、とうふが、いろいろなすがたにへん身して食べられていくことを知りました。大豆がきゅう食で出たり、豆まきで使われたりしていることが知れたので、物や食べ物がどういった大豆を知り、おもしろい、次にどう食べるか、大豆の味を味わって食べたいと思いました。

とうふ



これは何から
できているでしょう。

〈裏〉



大豆をいって、こにひくも、ちにかきまぜる。さうに、大豆にふまれる大切な、ようじを取り出して、ちかく食品にする。大豆をばん水にひたし、なめかになるまですりつぶします。これに水をくわえて、かきまぜながら熱します。その後、めもを使て、身をすり出します。すり出したしるに、けりといつもをくわえると、かたまって、とうふになります。このように、大豆はくふうされて、いろいろなすがたになて食べられています。

答え
○大豆です。

5 本時の学習（4/14時）

（1）本時の目標

「中」のそれぞれの段落の内容を読み取り，例の書き方やその順序など説明の仕方や工夫を見つけることができる。

【思C（1）ア】

（2）学習展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
0	① めあてを確認する。 ○前時の「はじめ」の書かれ方について振り返り，本時の課題を確認する。 「中」をくわしく読んで，おいしく食べるためのくふうを整理しよう。		
5	② 「中」のそれぞれの段落の大事な文を確かめる。 ○「問い」の「答え」になる部分が各段落の中心となることを押さえる。 ・「おいしく食べるための工夫は？」 →「大豆をその形のままいたり，にたりして，やわらかく，おいしくするくふう」 いる…豆まきに使う豆 にる…煮豆（おせちの黒豆） ※中心となる文は，各段落の一行目にあることに気付かせる。	・深読みのコツは板書して明示する。 「おいしくするくふう」という言葉を探すことで，事例がどこにどんな形で示されているかを捉える。 ・協働的な学びの前に，全体で一つ例を示すことで，その後の活動に取り組みやすくする。	・「はじめ」とのつながりを考えて，各段落の大事な文を見つけている。 （発言・ワークシート）
35	③ 「中」の段落の工夫について考える。 ○各段落で挙がっている事例の順序性を捉える。 ・簡単に作れるものから難しいものの順に書かれている。 ・最後のほうは，ちがう食品にするなど，びっくりするものに変えられている。 ○接続語の使われ方について考える。 ・「次に」「また」「さらに」など，どんどん難しい工夫になっていっていることがよく分かる。	・事例の順序は，筆者が並べている順序だけでなく，自分たちがよく知っている食べ物の順など，他にも考えられることに触れる。	
40	5 本時の学習をまとめる。 ○本時で見つけた工夫をまとめる。 ○分かったことを振り返る。		